

●この説明書は施工完了後、施主様へお渡しください。

■施工される方へのお願い

- ▲ 警告**
- 設置条件
 - 建物側の屋根からの落雪による破損防止のため、落雪が製品に直接当たらない場所に取り付けてください。
 - 風の強い場所及び、積雪の多い場所では補強のため、補助柱(別売り品)を取り付けてください。
 - サイトスクリーン取付け時は、補助柱(別売り品)を取り付けてください。
 - 部材の固定
 - タッピンねじの下穴は、指定された下穴より太いドリルを使用しないでください。(4mmのねじに対し3.5mm、5mmのねじに対し4.5mmのドリルをあけてください)
 - 組立てねじ・ボルトは、必ず指定のものを使用してください。又、施工終了後、ねじ・ボルトに緩みがないか再点検してください。
 - 施工時の定場について
 - 取付け時は、製品の屋根にはのらないで

- ▲ 注意**
- 設置条件
 - 本製品は一般地域用です。積雪の多い地域には取り付けてください。
 - 一般地域用600形…積雪20cm以下の地域
 - コンクリート(またはモルタル)には海砂や急結晶剤は絶対に使用しないでください。使用するとアルミが腐食するおそれがあります。
 - 柱基礎には必ず石を敷き、柱内の水抜きができるようにしてください。また柱と基礎の付根のところに水抜き穴(φ6)をあけておいてください。
 - 養生期間は十分(4日~1週間)にとり、養生期間中は重いものをせたり、振動させたりしないよう指示ください。
 - 基礎について
 - 基礎の大きさは、指定寸法以上してください。
 - 地下埋設物(給排水管など)に影響を及ぼさないようご注意ください。
 - 絶縁処理について
 - アルミ材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する時は、絶縁処理をしてください。
 - 屋根パネルについて



■施主様へのお願い

- ▲ 警告**
- 電線などの電線をフレームに巻きつけたりしないでください。漏電するおそれがあります。
 - 積雪時には、危険です。積雪量を超えないようご注意ください。
 - 一般地域用600形…積雪20cm以下
 - ※雪下ろしなどで屋根にのらないでください。

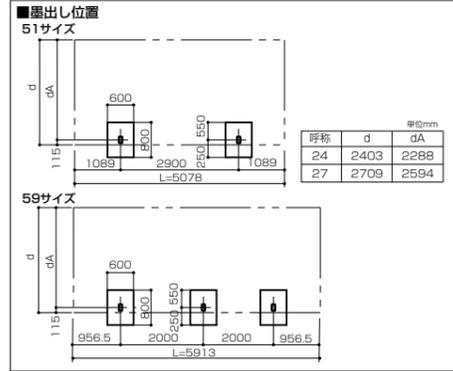
- お手入れ・問い合わせ先について**
- 【建物の立地条件と清掃回数】**
- 腐食の防止には定期清掃が一番です。簡単な水洗いだけでサビは防げず、定期的な年1~2回程度水洗いし、空ぶきするだけでぐんと長持ちします。汚れの特にひどい工業地帯、海岸のすぐそばなどでは清掃回数を増やしてください。
 - アルミニウム表面の保護膜に傷を付けますと、腐食を早めます。清掃には布やスポンジなどの柔らかいものをご使用ください。金属製ブラシや金ペラは絶対に使用しないでください。
 - 洗剤は中性のものだけを使用してください。酸性やアルカリ性のものはアルミ表面の保護膜を傷し、サビの原因となります。
 - 軽い場合…水で濡らした雑巾でふきます。
 - ひどい場合…中性洗剤を薄めた液で汚れを落とす後、洗剤が残らないように水洗いし、空ぶきします。著しく腐食しサビがでた場合…中性洗剤を付けたナイロンたわし又は、目の細かい紙ヤスリで部分的に軽くこすり、汚れやサビを取り除きます。その後、水洗いし、乾燥させた後、塗料のはげた部分にタッチアップ塗料やスプレー塗料を塗装してください。
 - ※タッチアップ塗料やスプレー塗料は、色調の近い車用の補修塗料を使ってください。
- 【屋根パネルの取換え】**
- 古くなった屋根パネルは早めに取り替えてください。強風その他の衝撃を受け、破損のおそれがあります。屋根パネルは当社指定品をご使用ください。
 - 屋根パネルの耐用年数は、アクリル製とポリカーボネート製では多少異なりますが、屋根パネルの端部や固定穴の周辺に亀裂が生ずる等老化してきた場合はただちに交換してください。
 - ※殺虫剤や農薬をアクリルパネルの近くで散布すると、パネルに亀裂を生じるおそれがありますのでご注意ください。

- 交換、修理について**
- 通常の取扱いによって生じた不具合については、原則として当社の責任において交換・補修しますが、下記の場合は責任を負いかねますので十分にご注意ください。
- 当社が表示した「施工される方へのお願い」及び、「施主様へのお願い」を守っていただけなかった場合。
 - 当社が表示した以上の性能を必要とする用途や場所(地域)に製品を設置した場合
 - 工事に欠点があった場合
 - 製品に他の構成材を加えたり、又は規格外に加工して製品の形態を変えている場合
 - 風・雪による落下や飛来による損傷
 - 製品の表面に、特に有害な大気中の砂じんやばい煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどの反応物質が付着して起こる腐食
 - 不可抗力(天災、地震、異常気象(風、雪、水害など) 地盤沈下、火災、騒音など)による場合
 - 本製品は、一般地域用です。一般地域用600形…積載荷重600N/m²(61.2kg/m²)
- レークポートは、JIS規格同等品です。強度・耐久性などの品質についてはJIS製品と変わりありません。

■取付け順序

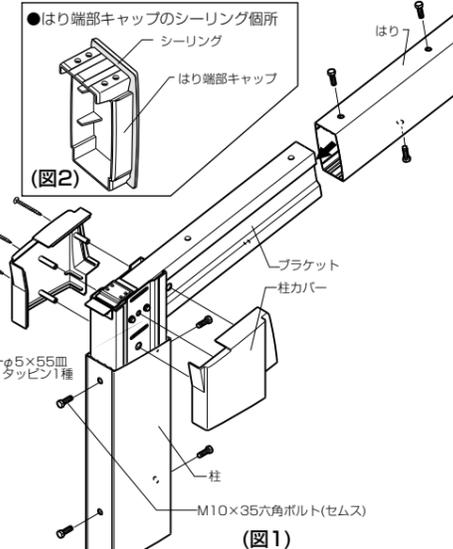
1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。



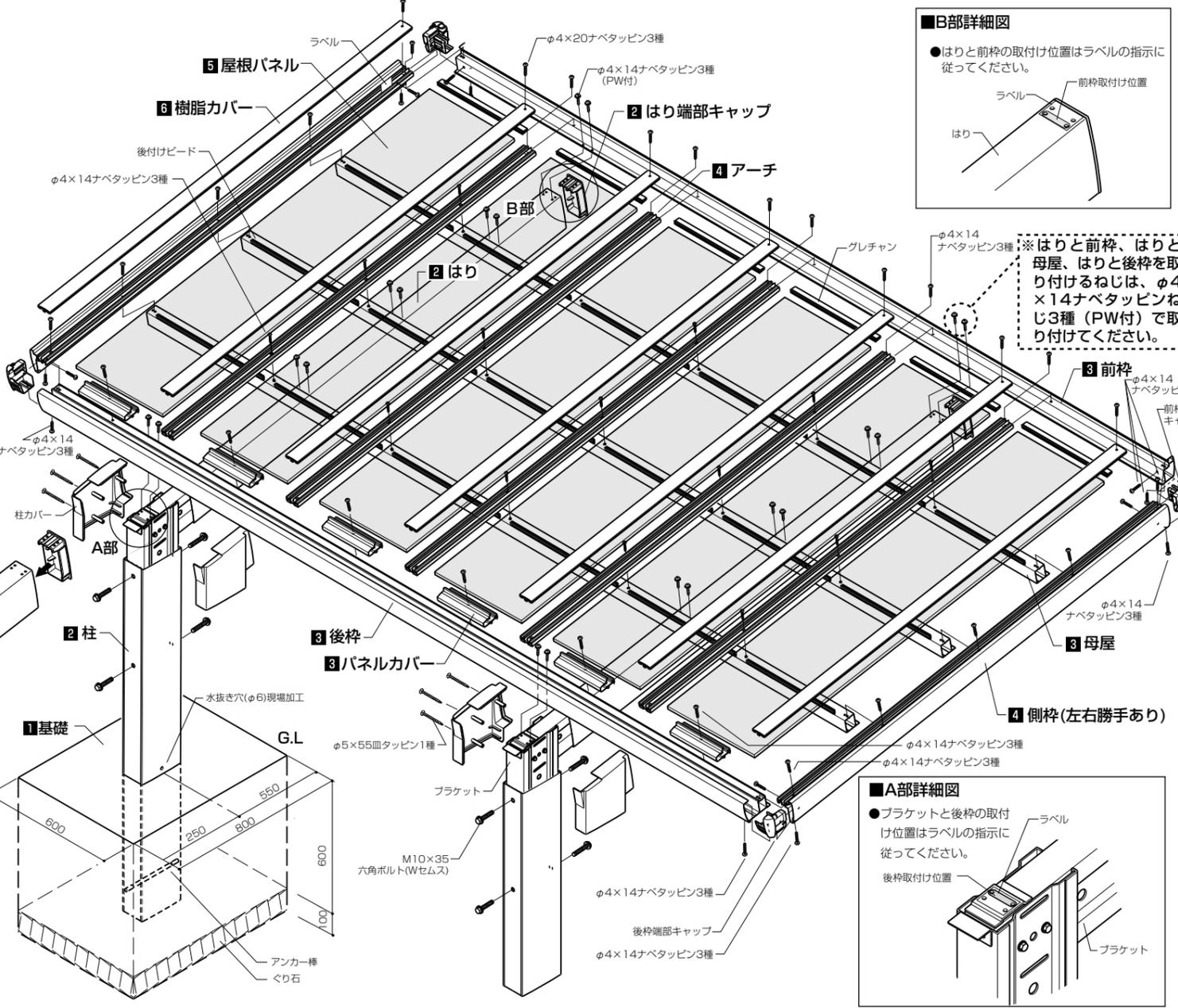
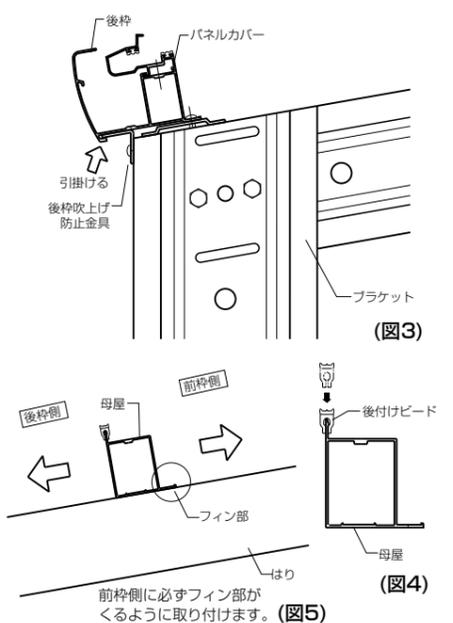
2 柱とはりの取付け(図1参照)

- 柱にブラケット・アンカー棒をそれぞれ取り付け、柱を建て込みます。
- はりをブラケットに取り付けます。その後、柱カバー・はり端部キャップをそれぞれ取り付けます。
- はり端部キャップを取り付ける際は、シーリング材を充て込んでください。(図2参照)
- はり端部キャップは、前枠を取り付けた後では取り付けられません。必ず、前枠より先に取り付けてください。
- 「使用上の注意」ラベルを張付けてある柱にたて榫セットを取り付けますと、表示が見えなくなります。たて榫セットの取付けがない面に表示ラベルを向けてください。



3 前枠・母屋・後枠・パネルカバーの取付け

- パネルカバーを後枠に取り付けます。
- 後枠吹上げ防止金具に後枠を引掛けた後、後枠をブラケットに取り付けます。(図3参照)
- 取付け位置はブラケット上部のラベルの指示に従ってください。(A部詳細図参照)
- 母屋のフィン部に後付けビードをはめ込みます。(図4参照)
- 母屋をはりに取り付けます。
- 前枠側にフィン部が向くように取り付けます。(図5参照)
- 前枠をはりに取り付けます。
- 取付け位置ははり上端部のラベルの指示に従ってください。(B部詳細図参照)



4 側枠・アーチの取付け

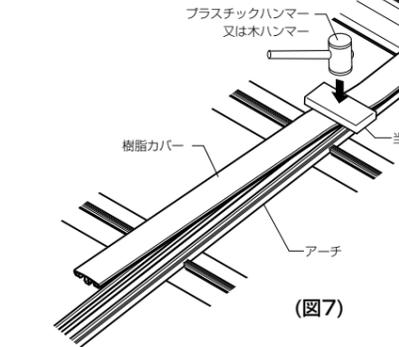
- 側枠に前・後枠端部キャップを取り付けます。
- ※あらかじめ、前・後枠端部キャップにシーリング材を充て込んでおいてください。(図6参照)
- 側枠には、左右があります。
- ラベルがある方を、前枠側にしてください。
- 前・後枠と母屋に、側枠を取り付けます。
- アーチを取り付けます。
- アーチには前後の区別がありますので、ご注意ください。右図に示す方が前枠側になります。
- 屋根枠まわりの対角・水平出し及び柱の垂直出しを行ってください。

5 屋根パネルの取付け

- 屋根パネルの端部にグレチャンを取付け水平に前枠に差し込みます。
- 屋根パネルをパネルカバーの透き間に差し込みます。
- ※アーチ部のみみ込み寸法は、左右等にしてください。(のみみみ代12mm)

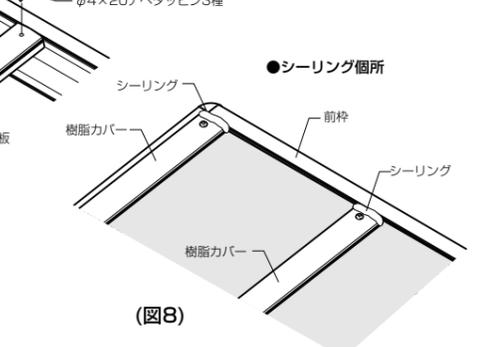
■屋根パネル寸法表 単位mm

呼称	d	W
24	2391	819
27	2701	819



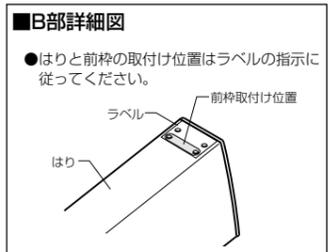
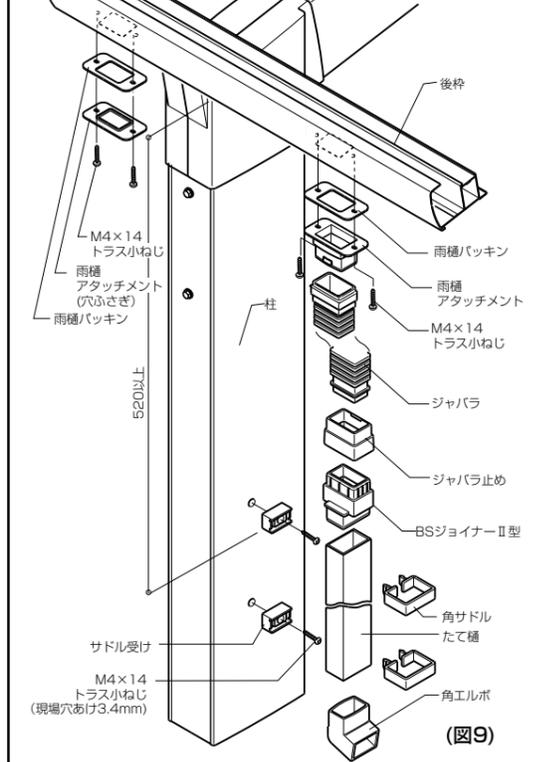
6 樹脂カバーの取付け(図7参照)

- 屋根パネルは、樹脂カバーで固定します。
- 樹脂カバーを取り付ける位置を確認し、樹脂カバーが斜めにカットされている方を前枠の透き間に4mm程差し込みます。
- 樹脂カバーを前枠側からたたき入れ、約1/3程入れた後、後枠側に樹脂カバーの端を先に入れて、更にたたき入れます。
- 樹脂カバーを取り付けた後、前枠側の透き間をシーリングしてください。(図8参照)
- 樹脂カバーをたたき入れる際、必ず当て板をしてください。
- ※必ず形材と樹脂カバーのはめ合わせ位置があることを確認してください。
- ※樹脂カバーをたたき込むハンマーは、必ずプラスチックハンマー又は、木ハンマーを使用してください。
- ※一度取り外した樹脂カバーは再度使用できませんのでご注意ください。



7 たて榫セットの取付け(図9参照)

- 後枠の両端に水抜き穴加工がしてあります。片方にたて榫セットを取り付けます。
- もう一方の穴は、雨樋アタッチメント(穴ふさぎ)を取り付けます。

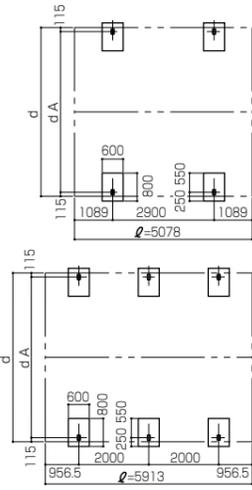


■M合掌の施工手順

1 基礎の施工

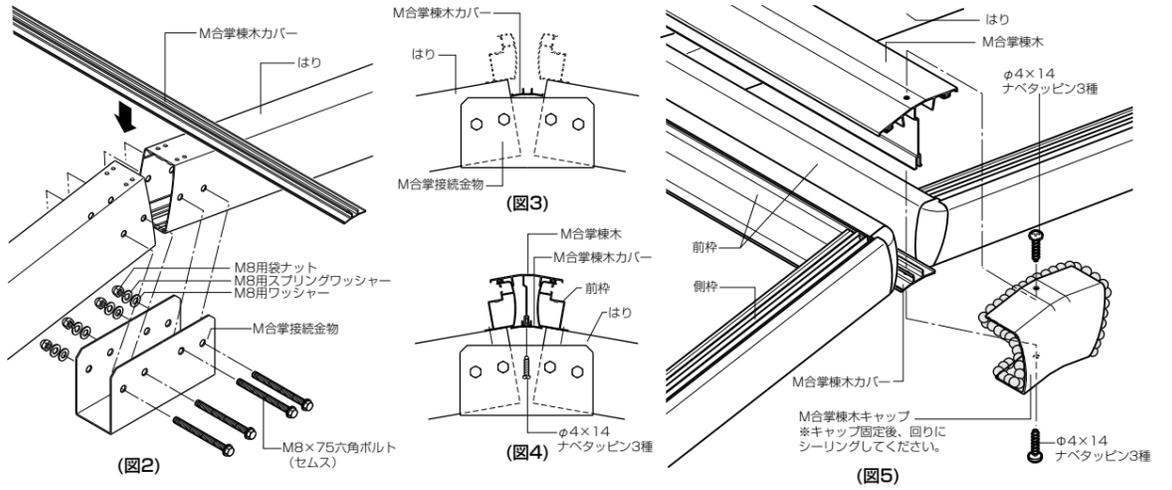
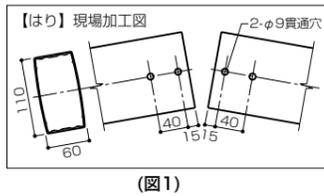
- 柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
- ※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

呼称	d	dA
24-24	4827	4597
27-27	5437	5207



2 本体の組立て

- 組立て前にはりの前枓側を現場加工してください。(図1参照)
- 柱・はりを組み立てて建て込み、はりとはりをM合掌接続金物で接続します。(図2参照)
- M合掌棟木カバーをM合掌接続金物の上のせた後、前枓、母屋、後枓、側枓を本体に取り付けます。(図3参照)
- M合掌棟木、M合掌棟木キャップをそれぞれ取り付けます。(図4・5参照)
- ※M合掌部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

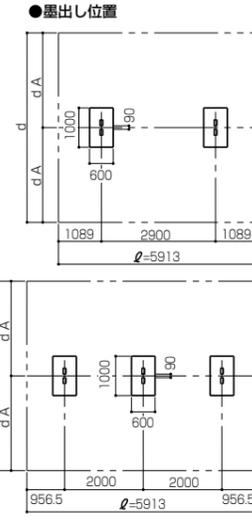


■Y合掌の施工手順

1 基礎の施工

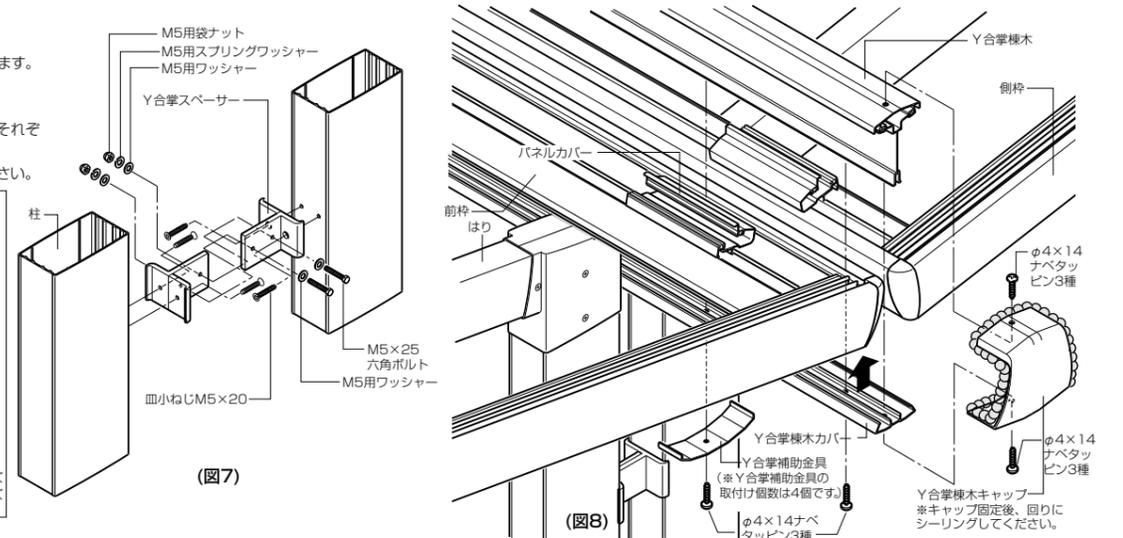
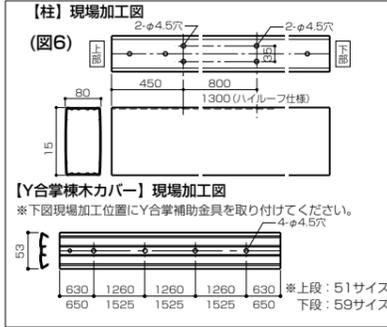
- 柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
- ※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

呼称	d	dA
24-24	4817	2408.5
27-27	5427	2713.5



2 本体の組立て

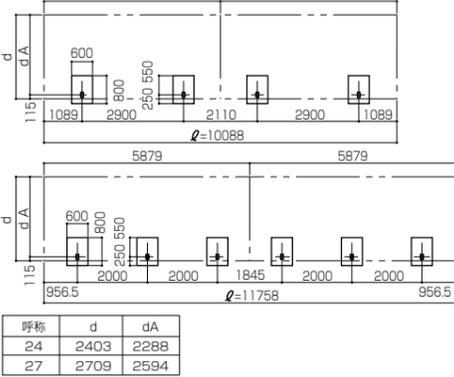
- 組立て前にはりを現場加工してください。(図6参照)
- 柱にY合掌スペーサーを取り付け、柱を接続して建て込みます。(図7参照)
- 柱、はり、前枓、母屋、後枓、側枓を組み立てます。
- Y合掌棟木、Y合掌棟木カバー、Y合掌棟木キャップをそれぞれ取り付けます。(図8参照)
- ※Y合掌部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。



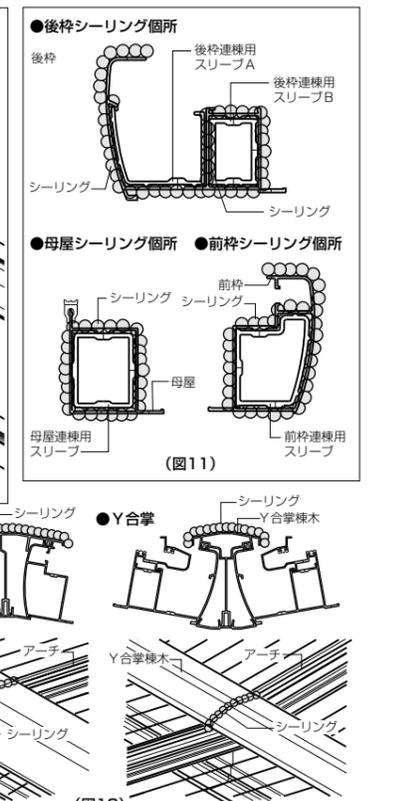
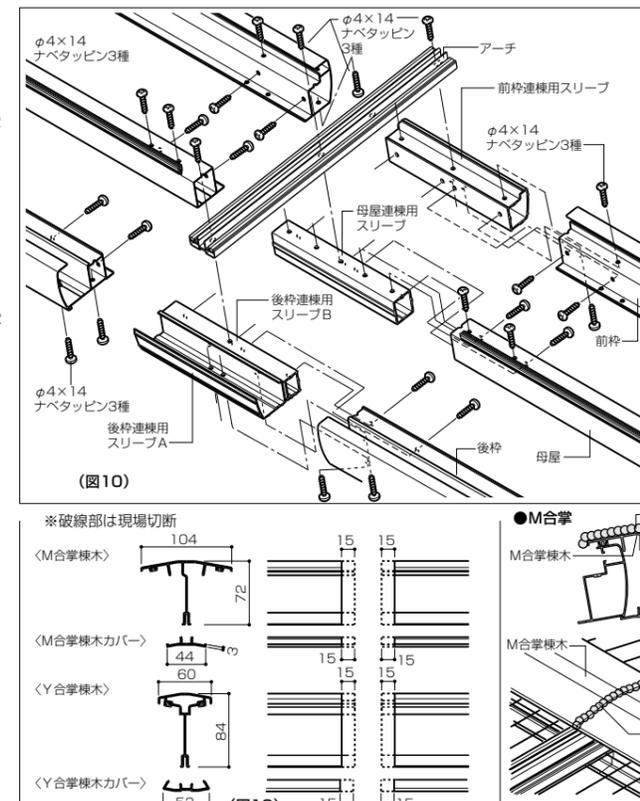
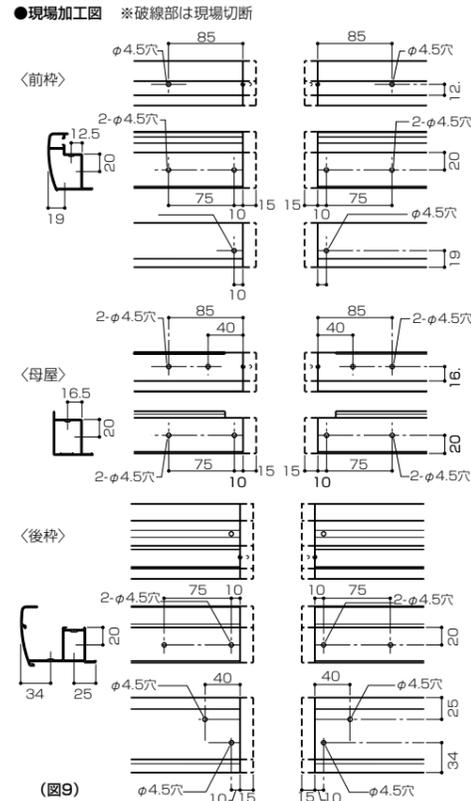
■縦連棟の施工手順

1 基礎の施工

- 柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
- ※基礎構造については、基本タイプを参照してください。



呼称	d	dA
24	2403	2288
27	2709	2594



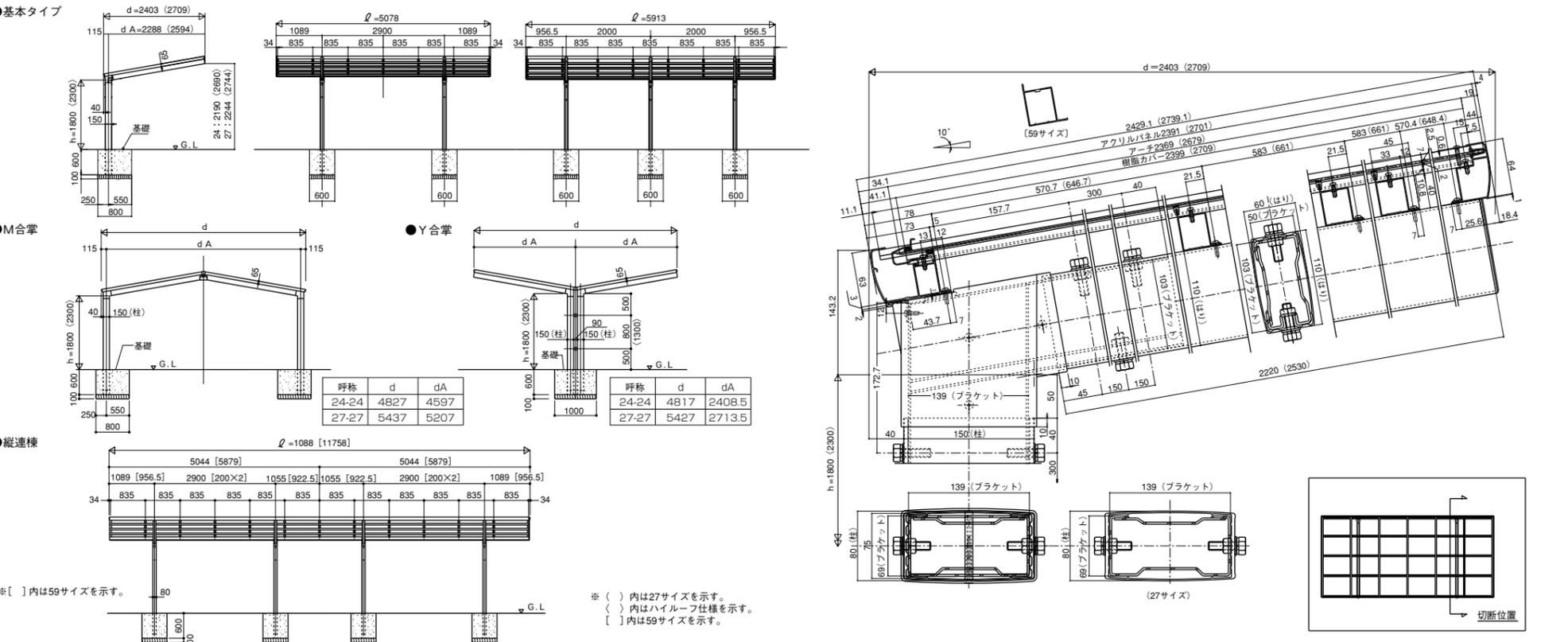
2 本体の組立て

- 組立て前にはり、前枓、母屋、後枓の連棟側を現場加工してください。(図9参照)
- 連棟部分を組み立てます。(図10参照)
- ※連棟部分にシーリング材を充てんし、連棟スリーブ、前枓、母屋、後枓をそれぞれ接続します。(図11参照)
- ※連棟部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

3 M合掌・Y合掌の縦連棟

- 組立て前に、棟木及び棟木カバーの連棟側を現場加工してください。(図12参照)
- 合掌棟木の接続部分にシーリングをしてください。(図13参照)

■納まり参考図



※ [] 内は59サイズを示す。
 ※ () 内は27サイズを示す。
 ※ < > 内はハイルーフ仕様を示す。
 [] 内は59サイズを示す。